

機関番号：12601

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21700614

研究課題名（和文）日本の高校クラブ活動の教育的役割：高校野球による人間形成

研究課題名（英文）The Educational Role of Extracurricular Activities in Japanese High Schools: “Character-Building” through High School Baseball

研究代表者

ブラックウッド トーマス (BLACKWOOD THOMAS)

東京大学・社会科学研究所・准教授

研究者番号：30361637

研究成果の概要（和文）：今回の研究は日本の高等学校の部活動の教育的な役割について調査した。結論から言うと、部活動（とくに運動部）に関わっている者は、その活動を通してさまざまなことを学び、身につけていると信じ、そして、部活動は進路、自己認識、価値観など、強い相関関係があることがわかった。実態調査に基づく客観的な統計はほとんど無かったから、この研究は、「印象」程度だった部活動の教育的効果を客観的なデータで証明した。

研究成果の概要（英文）： This study provides valuable data empirically demonstrating strong correlations between Japanese high school students who participate in extracurricular clubs and their self-assessment of certain character traits and values, as well as attitudes towards school and career choices.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
21年度	2,700,000	810,000	3,510,000
22年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：教育・学校、教育社会学、スポーツ社会学、進路指導、高校部活動、人間形成

1. 研究開始当初の背景

私はこれまで高校野球を具体例として、日本における高等学校の部活動の教育的役割について調査してきた。

これまでの研究でわかったことは、高等学校の野球部で活動することが、対人関係のス

キルや人格形成に役立つと、多くの高校野球の監督・コーチ、部員が強く信じていることだった。

その研究成果は、すでいくつかの欧米学術雑誌に論文として公表している（“Bushidō Baseball? Three ‘Fathers’

and the Invention of a Tradition,” *Social Science Japan Journal* 11:2 [2008] 等)。現在、アメリカの大学出版会からの著書出版に向けて、内容をとりまとめているところである。

2. 研究の目的

これまでに行なった調査は、野球部の実態解明だけに終わっていた。そのため、①野球部以外の部活動の教育的な役割がどうなっているのか、②他の部活動に比べて、野球部がどれだけの教育効果を持っているのか、という点の考察が不十分であった。

本研究会は、以上の問題意識に基づき、以下の調査計画を立てた。上記の項目につけくわえて、部活動の経験が高校卒業後の人生においてどのような影響を及ぼしているのか、そして、部活動の加入者／非加入者、そして加入する部による生徒の進路や自己認識や価値観に違いがあるかどうかを検証し、各部活動間の比較検討を行なうための調査を計画した。

3. 研究の方法

以上の計画をもとに実施したのが、現高校三年生を対象にした「高校三年生の学生生活意識調査」のアンケートである。

このアンケートは2009年(平成21年)の秋から2011年(平成23年)の春まで全国8つの都道府県(北海道、茨城県、千葉県、東京都、山梨県、鳥取県、島根県、大分県)から18校の高等学校のご協力をいただき、計3,753名から回答を得ることができた。なお、このアンケートを実施すると同時に各高等学校を訪問し、部活動の練習、活躍ぶりなどを観察し、先生や生徒達などとのインタビューも行いました。

本アンケートは、(1)部活動についての項目(部活動に入部したかどうか、入部した

なら何部に入部したか、練習や活動の時間、部の強さなど)、(2)本人についての項目(本人の自己認識、価値観、そして高校卒業後の進路など)の大きく2つのパートにわかれている。

4. 研究成果

多くの人は、おおよその印象としては部活動の教育的効果を認めているし、それは文化部より運動部についてより強く感じている。しかし、実態調査に基づく客観的な統計はほとんど無かったから、この研究は、「印象」程度だった部活動の教育的効果を客観的なデータで証明した。

さて、学生たちは部活動で何を学んでいるのだろうか。以下の表のそれぞれの項目の平均値を計算するために、次の点数をそれぞれの答えに与えた:「とても当てはまる」=4点、「やや当てはまる」=3点、「あまり当てはまらない」=2点、「全然当てはまらない」=1点。すべての項目の平均値が「2.5点」を超えていることから、部活動がさまざまな観点から学びの場として肯定的な評価を得ていることがわかる。

平均値を比較してみると、「親しい友人ができた」といった人間関係の形成についての値が高い。「技術や能力が向上した」という部活動そのものについての項目以外にも、「感謝の気持ちの大切さを覚えた」「挨拶ができるようになった」「礼儀正しくなった」といった日常生活の規律面での学びに、多くの者が肯定的な評価を下している。部活動の「教育的効果」は、正規の学校教育だけでは身につけにくい、人間関係や日常生活の規律面で大きく働いている。

部を通して、何を学んで、何を得たのかの

平均値

	平均 値	運動 部	文化 部
親しい友人ができた	3.59	3.67	3.39
技術や能力が向上した	3.41	3.48	3.23
感謝の気持ちの大切さ 覚えた	3.40	3.50	3.15
挨拶ができるようになった	3.35	3.48	3.03
礼儀正しくなった	3.32	3.45	2.98
親しい先輩ができた	3.30	3.46	2.90
困難に耐える意思(根 性)が身に付いた	3.27	3.44	2.83
集中力が身に付いた	3.24	3.35	2.96
協調性が身に付いた	3.21	3.30	3.00
顧問の先生との繋がりが 深くなった	3.11	3.18	2.95
体力がついた	3.08	3.52	1.99
自分の意見が言えるよ うになった	2.98	3.07	2.77
問題の解決力が身に付 いた	2.91	2.99	2.70
親しい異性ができた	2.28	2.34	2.13

部活動の種類によって、学びの内容に違いが出るのは、想像が付きやすい。たとえば、運動部は文化部よりも体力がつくはずだと、だれもが予想するだろう（実際、そのとおりの結果が出ているのだが）。しかし、おどろくべきことに、運動部はすべての項目で、文化部よりも高い平均値を出しているのである。運動部の部員たちは、文化部の部員たちよりも、さまざまな点について、学び、身に付けていると感じているわけである。

部活動——とくに運動部——に関わっている者は、その活動を通してさまざまなこと

を学び、身につけていると信じている。そして、部活動を行なうことは、進路、自己認識、価値観と、強い相関関係があることがわかる。たとえば、進路について、検討してみた。

部のタイプ	就職	進学	その 他
運動部	17.4%	81.6%	1.0%
文化部	19.7%	78.1%	2.2%
部活なし	24.5%	71.8%	3.7%

また、多くの部活動の参加者が部を通して「感謝の気持ちの大切さを覚えた」や「礼儀正しくなった」などと答えている。なお、自己認識の面では、部活動の加入者が未加入者より「自分は感謝の気持ちを忘れない」と答えている（全体の平均値：3.17、運動部：3.23、文化部：3.18、部活なし：3.05）、または「自分は礼儀正しい・挨拶をしっかりとる」と答えている（全体の平均値：3.13、運動部：3.20、文化部：3.16、部活なし：2.98）。

自分は…	全体	運動 部	文化 部	部活 なし
友達を大事にする	3.44	3.50	3.42	3.34
人生に運は重要だと思う	3.37	3.42	3.34	3.32
上下関係を大事にしている	3.22	3.32	3.23	3.04
感謝の気持ち忘れない	3.17	3.23	3.18	3.05
礼儀正しい・挨拶をしっかりとる	3.13	3.20	3.16	2.98
元気・明るい	2.93	3.05	2.80	2.82
正直だ	2.89	2.93	2.90	2.84

協調性がある	2.86	2.95	2.82	2.72
決めたことは最後までやりとげる	2.78	2.87	2.77	2.65
我慢強い	2.75	2.83	2.77	2.61
努力型・一所懸命頑張る	2.75	2.86	2.76	2.56
やさしい・思いやり	2.73	2.77	2.69	2.67
根性がある	2.73	2.89	2.67	2.50
責任感がある	2.70	2.75	2.75	2.58
意思をもって行動できる・積極的	2.70	2.79	2.69	2.57
思考力がある	2.56	2.60	2.57	2.52
私には人並みの能力	2.54	2.57	2.55	2.47
体力がある	2.48	2.85	2.05	2.15
自信がある	2.10	2.16	2.03	2.03
全体として自分に満足している	2.04	2.09	2.05	1.98
頭がいい・勉強ができる	1.87	1.84	1.94	1.86

そして、価値観の面では、多くの項目で部活動加入者(とくに運動部)が部活動未加入者を上回っている。ただし、「体力」の項目では、部活動未加入者が文化部加入者をはっきりと上回っている。そして、「根性」、「正直さ」、「上下関係」も、ほんのわずかでありながら、部活動未加入者が文化部加入者を上回っている。つまり、運動部の部員たちは、文化部の部員たちや部活動未加入者たちよりも、多くの価値観について大切であると信じているのである。

	全体	運動部	文化部	部活なし
礼儀	3.81	3.82	3.83	3.78
友達・仲間	3.81	3.83	3.80	3.78
感謝の気持ち	3.78	3.80	3.81	3.73
やさしさ・思いやり	3.77	3.79	3.79	3.72
一所懸命努力	3.74	3.77	3.75	3.69
責任感	3.70	3.72	3.70	3.66
積極性	3.69	3.71	3.67	3.67
協調性	3.64	3.66	3.64	3.60
思考力	3.60	3.62	3.59	3.56
我慢強さ	3.59	3.63	3.58	3.53
根性	3.59	3.62	3.55	3.56
元気・明るさ	3.56	3.60	3.55	3.50
正直さ	3.47	3.51	3.42	3.44
自信	3.41	3.46	3.37	3.36
上下関係	3.41	3.47	3.35	3.36
学習能力	3.35	3.36	3.34	3.33
体力	3.20	3.25	3.12	3.17

なお、野球部とそれ以外の運動部の比較について言及しておこう。今回集めたデータによると、これまで私が主張してきたように、野球部は他の運動部と比べて「教育的」であった。すべての項目で最も平均値が高いというわけではなかったが、ほとんどの項目で上位に位置していた。なお、野球部員の回答者の数が他の運動部に比べて相対的に多かったことから(運動部の3番目に多かった)、その回答の信頼性は他の部と比べて高いと考えられる。野球が「教育的」である理由は、ここで詳細に論じることはできないが、これ

までの日本野球の歴史や高野連（財団法人日本高等学校野球連盟）の影響が大きい。ただ、本研究で明らかになったことの1つは、野球部だけが極端に「教育的」であるとは言えないことだ。私は野球部を「運動部」の典型例として見るべきであろう。

この調査から運動部、文化部の双方とも、一定の教育的効果があることが明確になった。では、部活動に参加しない生徒に対して、部活動を補完する教育はありうるのだろうか。本調査からあきらかになった課題はそうした部活動の参加／不参加のあいだにある教育格差の問題である。部活動に参加しない生徒たちの実態と部活動を補完する教育に関しては今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① ブラックウッド トーマス、"Playing Baseball/Playing ' House ' : The Reproduction and Naturalization of 'Separate Spheres' in Japanese High School Baseball," *Sport, Education and Society*, 査読有、Vol. 15、No. 1、2010、pp. 83-101.

[学会発表] (計 2 件)

- ① ブラックウッド トーマス、"Homo Athleticus: Japanese High School Extracurricular Clubs as a Part of Education." Association of Asian Studies 2011 annual conference, Honolulu, Hawaii, 2011年4月2日。
- ② ブラックウッド トーマス、"High School Baseball and the Socialization of Japanese Boys," ISS Contemporary

Japan Group, 東京大学社会科学研究所、2009年6月2日。

[その他]

- ① ブラックウッド トーマス、「高校部活動の教育的な役割に関する調査アンケート報告書」。東京大学社会科学研究所。2011年3月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ブラックウッド トーマス

(BLACKWOOD THOMAS)

研究者番号：30361637